

47歳、4児の子育てをしている父親です。常日頃、子ども達には、身の周りにある美しいフォルムを感じ取り、自分のものにして生きていってほしいと感じています。

年末年始は、子ども達を連れて美術館や神社仏閣を巡りました。特に美しかったのは、三ノ丸尚蔵館で見た天皇陛下の婚礼衣装、ループル彫刻美術館で見たサモトラケのニケとミロのヴィーナスでしょう。

天皇陛下の婚礼衣装は、日本の伝統技術が幾重にも施された最高傑作と言えるもので、生糸の輝きと滑らかさ、衣装の細やかな刺しゅうや調度品の繊細なデザイン、全てが素晴らしかったです。

一方、本物の作品を直接型取りして製作されたサモトラケのニケとミロのヴィーナスは、世界美術史上の最高傑作だけあって、見とれてしまっ造形美でした。

黄金比と言われる美しいフォルム。子ども達と作品の周りを歩きながら眺めたあの時間は、家族に美しいフォルム。子ども達と作品の周りを歩きながら眺めたあの時間は、家族に

受け継がれるフォルム

飯田理一郎

データに基づいて書かれています。『ディスタクシオン』に書かれていた中で、興味深かったのは、美術館へ行くという習慣が子どもに与える影響でした。最初は興味を示さない子ども達も回を重ねるごとに、親の興味を理解し始め、美術品への関心を深めていくそうです。

とって、かけがえのない幸せなひとときでした。この経験は、フランスの社会学者ピエール・ブルデュー著『ディスタクシオン』を思い出させます。この本は、親の趣味や習慣がどれだけの子どもに影響を与えるかということを

だ食卓は終始、私の質問攻めでした。なぜ美術館や神社仏閣に連れて行ってくれたのか？なぜ職場に連れて行ってくれたり、仕事を手伝わせたりしたのか？ワイワイ、ガヤガヤ、子ども達と共に両親の話に耳を傾けた夕食は、心に残るものになりまして。

は、自然と様々な善の違ひを見分け、受け入れることにつながるようになるのかもしれない。この習慣は多文化への理解、多様性を重んじる現代社会において大切な習慣になるのかもしれない。そのように感じました。自然美、機能美、様式美。これらも様々な美しさを、子ども達には感受して欲しいと思っ

以前、養老孟司さんは「親が子どもに伝えられるのは形だけである」と述べていました。彼は「親が子どもを叱っても、子どもは叱られた理由を完全には理解できない。子どもはただ、特定の行動を取った時に叱られるという形を覚えるに過ぎない。この形を何度も繰り返して経験することで、徐々に形が型となり、それが自然と身に着いていく。そしていつか、子どもは、なぜ叱られたのか、その型の意味を理解し始める」と語っていました。

私自身も親として、祖父母や両親から聞いた話の意味を多く理解するようにになり、養老さんの言葉に深く共感しました。

子ども達には、私や妻を通して様々な形を見つけてほしい、型を覚えてほしいと感じています。そして「守破離」の時代にあった自分の生き方を見つけて、たくましく生きていってほしいと感じています。

(原町中)

もなる
げた。
同町で
は国や
低いが
対策推
し、引
東部地
は昨年
井年
県東
ンター
におけ
の要求
最終報
(昨年1
をま
調査
域の民
70組
113
回答が
組合(本
合)が
を行
全てが
100
状況は